

リハビリでできる庭園整備へ

医療法人社団睦由会（三股町）と南九州大は19日、包括的連携協定を結んだ。同法人運営の整形外科クリニックに9月に開設予定のデイサービスセンター（三股町）で、同大環境園芸学科の学生有志らが庭園設計に携わっており、こうした連携をさらに進める。

整備される庭園は「リハビリテーション・ガーデン」（約550平方メートル）で、同学科の2～4年生有志十数人らが協力している。歩行訓練などができる散歩道やスロープなどが設けられるほか、車いすでも作業ができるよう工夫される。

三股の医療法人 南九大生が協力



連携協定を結んだ前田学長（後列左）、江夏理事長（同右）と学生たち

た畑で花や野菜などを育てられるようにする計画という。協定に基づき、学生が庭園の維持・管理にかかわるなどより連携を深める。学生にとって利用者との交流などが図れ、利用者のリハビリにつながることも期待できるという。

19日は同大都城キャンパス（都城市）で睦由会の江夏剛理事長と同大の前田隆昭学長らが出席して締結式があり、江夏理事長は「学生との交流で、利用者が前を向き、心が動くきっかけになれば」と話した。整備に携わる同学科4年森岡欣信さん（21）は「（利用者）外を歩いたり、花などを楽しく育てたりできる庭園にしたい」と語った。